

第 147 回 番組審議会議事録

株式会社エフエムしみず

日 時 令和 3 年 1 月 20 日(水) 午後1時30分～の予定がコロナ対策で書面審議

審議委員 角替弘志委員長、望月紀久朗委員、小堺昭宏委員、伊藤公一委員、
水野仁志委員、大塚 泰委員 6名

エフエムしみず出席者 釜下賢一郎、佐野勝美、是永真由子

審議対象番組

マリンパル年末特別番組

Change the World2021～考えよう防災～

放送:令和 2 年 12 月 27 日(日)10:00～14:00 生放送

出演:石田民雄さん(ふじのくに防災士)、岩崎光美、佐藤ゆず、伊藤敏子

<今回審議>

近年、巨大台風への脅威や想定外の集中豪雨、懸念される南海トラフ巨大地震など大自然の力を前にどこまで対策を立てれば良いのか？難しい対応が迫られています。また、昨年は「阪神淡路大震災」発生から 25 年、そして今年「東日本大震災」から 10 年の節目の年を迎えます。更には昨年来、未曾有の新型コロナウイルスの蔓延など我々は目に見えない脅威にも晒されています。

そこで、“防災”をテーマとした年末特別番組を企画しました。コミュニティFM局は被災者向けの情報発信メディアとしての役割を担っています。ともすれば時間の経過と共に希薄になる“防災意識”を改めてリスナーと共に再確認する狙いです。

今回は、新型コロナウイルス禍で緊急事態宣言下の中、感染拡大を避けるため、会議は行わず審議対象番組を CD に収録し、資料と一緒に各委員に送り、ご意見を夫々の委員からメールにて送って頂きました。

角替委員長 「考えよう防災」

- ・新型コロナウイルス対策に人々の関心が専ら向かてしまっている中で、いつ起こってもおかしくないと言われている地震に対する防災をとりあげ、関心を引き起こそうとした試みは、極めて適切であったと思います。
- ・岩崎アナと石田氏のリモートにも拘らず。呼吸のあった進行で、番組全体がスムーズに展開したと思います。
- ・防災に関する諸側面が満遍なく取り上げられており、バランスの良い構成になっていたと思います。

取材は大変だったと思いますが。ラジオ関西の阪神淡路大震災の時の音声は非常に効果的でした。・JAMSTEC による駿河湾調査の海底地すべりのことも、東海大地震のことを思うと大変心配になります。・ハザードマップ・防災マップの重要さももっと知らせていかなければならないと改めて思いました。・この番組で集められた情報を、今後いろいろな場面(番組等)で積極的に活用することを検討して頂きたいと思います。

・私自身、清水で昭和 10(1935)年の大谷地震、昭和 19(1944)年の東南海地震を体験しているだけに、このような番組の大切さを感じます。目の前で激しい揺れで二階家が倒壊した時の恐ろしさは今でも忘れません。

望月委員

感想と意見を箇条書きにて記載いたします。

音声の状況

ZOOM による音声はことのほか良く聞こえました。使用機器、回線の状況が良いのか判りませんが、後半の電話出演に比べると明らかに違いました。ZOOM が活用可能であれば電話回線よりも良いかもしれません。

番組の構成として

最初から聞いていなくてもそれぞれ部分で完結していたのだらうと感じます。一方、それぞれの話題が希薄に、もうちょっと聴いてみたいという(試聴用でカットされているせいかもしれない。)感じがあったかもしれません。

一乗寺の話題、ジャムステックの海底地滑りの話題などそれぞれでもう少し長くても良いかもしれません。

防災情報広報用としてのコミュニティ FM 局の立場

阪神淡路の震災の前からだ記憶しておりますが、神戸三宮界隈だけで聞こえるコミュニティ FM 局がありました。この放送局がキー局や県内全域の情報ではない、コミュニティに特化した放送局としての位置づけをしたのだらうと思います。

エフエムしみずも同様の使命を担っていただいております。今回のような地域の細かな話題を今後も提供していただきたいと感じております。

そのためには放送を継続し続ける能力が必要となります。人的、機器、電源等の確保は常にされているとは存じますが、なおいっそうの不断の努力をお願いいたします。

伊藤委員 (杉山氏) 「考えよう防災」

全般＝阪神淡路大震災、東日本大震災からそれぞれ 25 年、10 年がたち、当時の状況の怖さが忘れがちなこともあり、年末の特番としてはタイムリーな企画でした。両震災だけでなく、ここ数年、

夏の豪雨など自然災害が常態化しています。自然の怖さを認識するだけでなく「もしも」のことに備える行動を考えさせられました。定期的にこのような番組を流してください。ゲストの石田さんの防災に対する声はとても参考になりました。

FM 神戸のスタジオからの放送はとても生々しい。今聞いても当時の怖さが伝わってくる。音声不安定なものも効果的です。SBSカメラマンが現場で一番の情報がラジオだった」のはなるほど感じました。ラジオの情報力をもっと知らせたほうが良い。

「一乗寺」の発音ですが「イチ」にアクセントがついていましたが、地元の人には平均的に発音しています。

石田氏が「地震の揺れでは建物は倒壊しないが津波では簡単に流された」は同感した。石田氏は元建築業ただけにさすがと思いました。

JAMSTECMの駿河湾における深層水の話は理論的でわかりやすい。地震防災センターからのレポートは起震車の様子がよくわかりました。もう少しオーバーでもよかったかもしれません。

ハザードマップはどの家庭にもあるはずですが、しまい込んでいる家庭も多いのでは。関心は低いと思うので連呼したほうが良いです。

湯瀬教授の災害時の連絡方法として電話ではなくネットのほうが通じやすいのも納得しました。

それとデマも流れるということは炎上防止のためにも慎重に扱うことが大切なことが理解できた。

平岡防災士が避難所でわいせつ行為による被害が多かったことは、もっと声を大にしてほしい。社会問題になったけど、マスコミではあまり報道されなかったので弱者救済の意味で強調してほしい。

もしもの地震で津波避難としてドリプラで3階以上に避難してほしいと話していましたが、市民感覚として一抹の不安があるのでは。でも、ドリプラ付近にいた市民にとっては、ドリプラが最も逃げやすいかもしれませんね。マリニビルはいかがですか？

大塚委員

ラジオ関西の阪神淡路大震災の音声から、当時の臨場感は伝わってきました。

静岡市危機管理総室の杉村職員もこの番組に出演させていただきありがとうございました。

災害時には、多くの役割を担っていただくのがエフエムしみずさんだと考えておりますので今後共宜しく願います。

水野委員

ラジオだから伝わるリアリティを感じさせる(ラジオ関西の音声など)内容で、防災の重要性を改めて感じました。リスナーにも感じてもらう良い機会になったと思います。また発災時の情報伝達というコミュニケーターFMの役割を説明しておくのも重要だと感じました。リスナーにエフエムしみずマリニビルの役割と、存在意義を知ってもらうよう、今回のような関連する番組の中で、繰り返し伝えておく方が良いと思いました。

そのような役割を果たす事を考えると、マリンパルにおいて、発災時の対応をある程度マニュアル化しておく必要もあると思います。(既に、対応されているかもしれませんが)
リスナーが動揺しているときに、アナウンサーが何を伝えるのか、非常に重要な点と考えます。
この辺りは、ケーススタディを行うなど、備えておくの良いですね。

小堺委員

阪神淡路大震災時、人工透析で困っている方に対して透析できる病院が1分で見つかった事はラジオの情報伝達の速さが良くわかり、素晴らしい伝達ツールであることが再認識された。

- ・阪神淡路大震災の時の音声は、非常に緊張感を感じ、リアルさが伝わってきた。
- ・地元静岡県の駿河湾の海底地すべりの情報も発信され、身近に感じた。
- ・静岡市の防災ハザードマップのホームページを見るきっかけとなった。
- ・災害時のデマや情報の信ぴょう性も確認が必要であることが大事だとわかった。
- ・パーソナリティの岩崎さんの声が聴きやすかった。

以上、新型コロナウイルス禍の中で、感染防止対策のため、今回は6名の審議委員が個別にCDで収録したものを聴いていただきご意見を頂戴しました。

その他

<今後の特別番組>

◆Jリーグ中継

エスパルスホーム全試合中継

第二節 3/6(土)清水エスパルス vs アビスタ福岡

第三節以降は、未定

◆開局25周年記念事業

エフエムしみずは、1996年6月2日開局しました。今年2021年は開局25周年の節目の年を迎えます。特別番組、イベント等を予定しています。内容等が決まり次第、審議会での報告を行います。

次回会議日程

次回の番組審議会開催日程は、3月開催予定ですが、緊急事態宣言延長後の様子を見て、後日開催日をお知らせします。

以上